

# 異国情緒あふれる海の街・横浜

～開港以降の歴史と現在までの変容～



異国情緒あふれる海の街・横浜  
～開港以降の歴史と現在までの変容～

**巡検概要**

神奈川県横浜市は横浜港開港以来、他国との交流が盛んに行われ諸外国と様々な交流をする中で成長していき、横浜は異国情緒あふれる街並みを形成していった。

本巡検で文化・自然環境・観光・産業の4分野から横浜・みなとみらい周辺地域についての歴史と変容について考察する。

**日時**

2024年7月13日(土)10:00～16:30(予定)

**集合**

京浜急行電鉄 神奈川駅 YABIN 神奈川駅前店付近

**解散**

港の見える丘公園 or 横浜中華街

**☆緊急連絡先☆**

鈴木修斗 0463-63-4921 (携帯直通)

横浜ランドマークタワーと エアキャビン横浜	横浜みなとみらい21地区
横浜中華街・天長門	山下公園
大さん橋からみた横浜みなとみらい21地区	

## 行程

10：00 京浜急行電鉄「神奈川」駅

10：05 甚行寺

旧東海道などについても説明

10：15 洲崎大社

10：35 みなとみらい大橋

みなとみらいの概況や周辺施設の説明

11：10 横浜ランドマークタワー

ここでトイレ休憩を取ります。

11：35 日本丸・旧横浜造船所跡地

11：50 馬車道

説明後、一次解散・昼食

13：30 横浜カップヌードルミュージアム前再集合

みなとみらいの観光資源などについて説明

13：50 ヨコハママリンアンドウオーク

14：10 赤レンガ倉庫

14：40 山下公園

15：00 横浜中華街

15：50 ジェラルールの瓦工場と水屋敷跡

16：15 港の見える丘公園

16：40 横浜中華街オノマトペ調査





# みなと横浜を象徴する 都心の間の造船所

- 1891年「横浜船渠」として、船舶修理の操業開始
- 1935年三菱重工業と合併、横浜造船所誕生  
港に近い駅周辺に造船所が広がる光景は全国的に特徴的

1960年代に入り東京の人口急増によりこれまでの都心部の関内の他に駅周辺も都心機能が集積。  
→都心の間に造船所が立地しており、発展を妨げているとの見方が

1965年「6大事業」発表。再開発対象地域に  
今でもランドマークの横にドッグの跡が残っている



<https://rarea.events/rarea/wp-content/uploads/2021/01/a1ecc08ed95b164c34d1f9cb9f3fd2a9-724x560.jpg>  
最終閲覧日2024/6/05



<https://hamakore.yokohama/dockyard-garden/>  
最終閲覧日2024/06/05

# 横浜の定番スポット

## 「みなとみらい21地区」

1983年度から現在にかけて整備されている計画都市で都市景観100選受賞地区

横浜ランドマークタワーや大観覧車コスモクロック21など横浜のシンボリックな建物が多く立地。開港以来の都心部の関内地域と戦後急速に発達した横浜駅周辺とその中間の臨海部の再開発により一体化する目的で整備された

名称は一般公募で選ばれ他で最も有力だったのは「赤い靴シティ」であった。



[https://www.veltra.com/jp/guide/wp-content/uploads/2023/10/pixta\\_91961218\\_M-1024x683.jpg](https://www.veltra.com/jp/guide/wp-content/uploads/2023/10/pixta_91961218_M-1024x683.jpg) 最終閲覧日2024/06/05

# 復興の象徴 山下公園

- 1923年9月1日、関東大震災が横浜の市街地を襲う  
→震災によって発生した瓦礫の集積所として指定
- 同年、**瓦礫**で埋め立て、公園を造る計画が立案
- 1930年、日本で最初の臨海公園として開園

写真 完成直後の山下公園



# ジェラルルの瓦工場と水屋敷

- ・ジェラルル水屋敷地下貯水槽  
→水を船舶に供給する給水業のための施設



ジェラルル水屋敷跡<https://www.hama-midorinokyokai.or.jp/park/motomachi/stroll.php>  
最終閲覧日：2024年5月31日

- ・山手の湧き水は非常に良質  
→「インド洋に行っても腐らない」とまで言われていた

- ・ジェラルルは、西洋式粘土瓦の工場も営んだ



アルフレッド・ジェラルルウィキペディア  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/> 最終閲覧日：2024年6月19日



# 馬車道



- 現在の馬車道商店街・伊勢崎商店街は日本人商店街の発展に伴い形成された中心商業地
- この場所に金融関連機能が集中していることで繁栄
- 馬車道通りで日本最初のアイスクリームが製造販売された

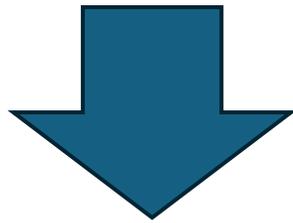
# 横浜赤レンガ倉庫

1911年 赤レンガ倉庫 2号館竣工

- ・新港ふ頭の新港の建設の一環として保税倉庫の建設開始

1913年 赤レンガ倉庫 1号館竣工

- ・日本が世界に誇る最新鋭の倉庫



『港の賑わいと文化を創造する空間』

1号館倉庫→文化施設

2号館倉庫→商業施設



横浜赤レンガ倉庫

<https://www.yokohama-akarenga.jp/>

最終閲覧日：2024年5月31日

## 港の見える丘公園

- 元はフランス山区域にあるフランス領事館の遺構であった
- 公園内にある展望台からは横浜港を一望することができる



小林撮影

# 中華街

- ・日本三代中華街と呼ばれており150年以上の歴史がある
- ・元々は中国人の居住地として作られた



出典：横浜観光 最終閲覧日2024年7月10日

# MARINE & WALK YOKOHAMA

- 三菱商事都市開発株式会社により2016年3月4日にオープン
- セレクトショップ、インポートブランド、などの個性的なブランドを有する



小林撮影

# 洲崎大神

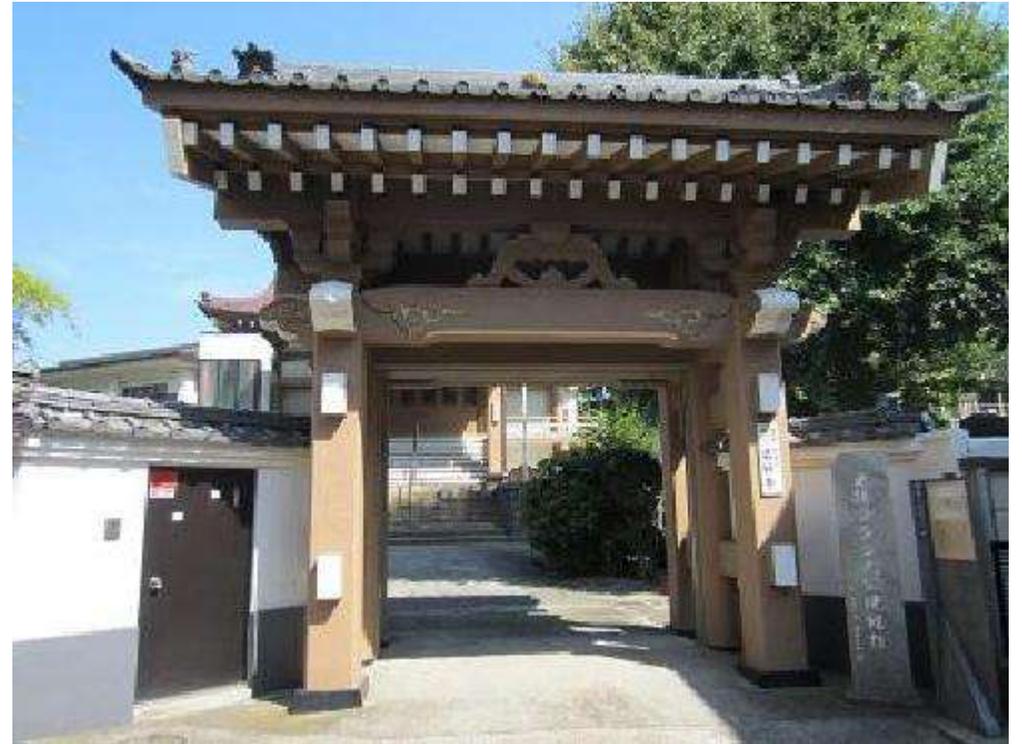
- 1191年に源頼朝によって創建された神社
- かつては社前まで海になっていた
- 毎年6月に「海幸祭」が行われる

▶ 洲崎大神 <https://enopo.jp> 6月19日



# 甚行寺

- ・ 1656年に暁秀上人を勧請して創建
- ・ 改造を加えてフランス公使館に



▶ 甚行寺 横浜市神奈川区

<https://www.city.Yokohama.lg.jp>

## みなとみらい・山下公園の概要と自然的条件

### 1、横浜市の概要

横浜市は関東平野の南西部、神奈川県  
の東部に位置している。北は川崎市、西は大和  
市・藤沢市・東京都町田市、南は鎌倉市・逗  
子市・横須賀市に接する。東は東京湾に面し  
ている。面積は 437.4 km<sup>2</sup>で、神奈川県全体  
の面積の約 18%を占めている。

人口は 2022(令和 4)年 10 月 1 日現在で  
3,771,961 人となっている。第一回国勢調査  
が実施された 1920(大正 9)年は人口  
422,938(人)、世帯数 95,243(世帯)だったが  
その後増加が続き、1951(昭和 26)年で人口  
100 万人、1968(昭和 43)年に 200 万人、  
1986(昭和 61)年に 300 万人を超えている。  
しかし近年は人口増加の幅が小さくなって  
きており、2021(令和 3)年には 4,257 人の  
減少となった。2020(令和 2)年の国勢調査  
を基に行った横浜市将来人口推計では、  
2040(令和 22)年に 363 万人、2065(令和 47)  
年に 315 万人と緩やかに減少していくこと  
が見込まれている。

#### 1-2 西区の概要

西区は横浜市のほぼ中央に位置し、人口  
は 2023(令和 5)年 7 月 1 日現在人口 106,442  
人で 18 区中最も少ない。世帯数は 59,240  
世帯である。将来人口推計は 2038(令和 20)  
年で 108,546 人と西区の人口は今後も増加  
し続けることが予想されている。老年人口  
比率は 2023(令和 5)年 3 月 31 日現在 65 歳  
以上の割合は 19.5%で横浜市全体の 24.9%  
に比べ低い傾向にあり比較的若い人口が多  
い区である。

#### 1-3 中区の概要

横浜市中区は面積 20.86 km<sup>2</sup>で西区と同様、

市の中心部に位置している。人口は 2024 年  
4 月 1 日現在 152,192 人で市内第 14 位の区  
である。

県庁や市役所の所在地で関内地区は横浜  
港開港以来の横浜の中心市街地であると同  
時に現在も県や市の中心的地域である。ま  
た横浜中華街や山下公園、みなとみらい 21  
地区、赤レンガ倉庫など観光地が多く存在  
し、伊勢佐木町、野毛など昔ながらの歓楽街  
も広がっている。

### 2、みなとみらい 21 地区の概要

#### 1-1 地域概要

みなとみらい 21 地区は横浜市西区と中  
区にまたがり横浜港に面している再開発地  
域であり 1983 年度から現在にかけて整備  
が進められている計画都市である。略称と  
して「みなとみらい」や「MM21」などと称  
される。高層展望台とホテルやテナントな  
どが集まる横浜ランドマークタワーや横浜  
コスモワールドの大観覧車であるコスモク  
ロック 21 など横浜のシンボリックな建物  
が多く立地している。

国土交通省と都市景観大賞審査員会が  
1991 年から 2000 年にかけて日本全国から  
選定した全国の高いデザイン水準の持つ  
100 の街に与えられる都市景観 100 選受賞  
地区である。

#### 1-2 地域の歴史

1965(昭和 40)年、横浜市は新たな都市づ  
くりの構想として「六大事業」を発表した。  
その筆頭に挙げられていたのが都心部強化  
事業である。これは開港以来の都心部であ  
った関内地区と戦後急速に発達した横浜駅

中心地区とを、その中間に位置する臨海部の再開発により一体化しようという構想である。この構想によってみなとみらい 21 地区の都心臨海部の整備事業が始まった。横浜市は埋め立てにより拡大してきた地域が多く、みなとみらい 21 地区においても横浜港開港前は海であった。

みなとみらい 21 地区の多くの部分は 1983(昭和 58)年以降に埋め立てられた土地が多い。みなとみらいは桜木町駅に近接するが、桜木町駅は初代の横浜駅であった。そしてこの初代横浜駅が日本で最初に鉄道が開通した駅であった。鉄道敷設などでみなとみらい 21 地区周辺では埋め立て工事が活発に進み、海であった現在のみなとみらい 21 地区周辺はどんどん埋め立てられていき、現在のみなとみらい 21 地区にあたる土地が出来上がっていったのである。そして埋め立て後は造船所として使われていた。ランドマークタワーの隣に面積約 720 m<sup>2</sup>という巨大な石積みのドッグヤードがあり、これが造船上の名残である。

横浜の沿岸地では修繕船事業「有限責任横浜船渠会社」が 1891(明治 24)年に設立し、その後このドッグヤードである 2 号ドッグ、帆船日本丸を係留している 1 号ドッグが完成した。

1935(昭和 10)年には横浜船渠は三菱重工業と合併し、1943(昭和 18)年には三菱重工業株式会社横浜造船所と改称された。太平洋戦争の配線を経て戦後、造船ブームも一時あったが、横浜と関内の間にある造船所が横浜の発展を妨げているという見方も出てきた。そして 1965(昭和 40)年当時の飛鳥田一雄市長により「六大事業」が打ち出され、その中でみなとみらいの建設構想が立

ち上がった。当時の横浜市は横浜駅周辺と関内・伊勢佐木町周辺が発達していたが、中間の桜木町駅に三菱重工業株式会社横浜造船所があることで都心部が二分化される事態に直面していた。また当時の横浜は急速な人口増加の途上にあっただが、市民の多くが東京都内に就業し横浜市は東京のベッドタウンとしての地位に甘んじていた。しかし行政は横浜に住み、東京に働きに行くスタイルではなく一人でも多くの人に横浜市内に住み、市内で仕事をしてもらいたいという思惑があり、桜木町駅周辺に都市を作り、横浜駅と関内地区を結び、多くの就業の場を設けるというみなとみらいの巨大プロジェクトが構想された。

1981(昭和 56)年に事業の名称として「みなとみらい 21」が一般公募で採用され、1983(昭和 58)年にみなとみらいの事業が着工される。この名称は「みなと横浜」をイメージしつつ「未来への発展を目指す 21 世紀の横浜にふさわしい」名称として採用された。その後 1985(昭和 60)年にはそごう横浜がオープンし、1989(平成 1)年には桜木町新駅前広場の供用を開始し、動く歩道が竣工し臨港パークの一部の供用も開始した。1991(平成 3)年にはパシフィコ横浜がオープンした。1993(平成 5)年横浜ランドマークタワーがオープンし、横浜銀行本店ビルがオープンし、横浜ロイヤルパークホテルもオープンした。1999(平成 11)年横浜ワールドポーターズがオープンし赤レンガパークの一部の供用を開始した。2009 年(平成 21)年日産自動車株式会社グローバル本社がオープンした。2011(平成 23)年カップヌードルミュージアムがオープンし、2019 年(平成 31・令和 1)年には横浜アンパンマン

こどもミュージアム、新港ふ頭客船ターミナル(横浜ハンマーヘッド)がオープンし、京急グループの本社もオープンした。2021(令和 3)年には神奈川大学みなとみらいキャンパスがオープンするなど、様々な観光名所や企業の本社ビル、学校などが立地していった。

2024年2月、みなとみらい構想のラストピースとされてきた「みなとみらい21地区60.61番街」の事業予定者が決定し、用途が決まっていない土地は残り1%余りとなり、みなとみらい21地区の完成はまもなくだ。

【参考資料】

みなとみらいエリアマネジメント、  
<https://www.ymm21.jp/div/chronology.html> (最終閲覧日：2024年6月6日)  
 横浜市.みなとみらい21地区事業概要  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/mm21/gaiyo.html>  
 (最終閲覧日：2024年6月6日)

みなとみらい周辺開発年表  
 (横浜市.みなとみらい21地区事業概要により作成)

年代		出来事
1965	昭和40年	横浜市「6大事業」発表
1983	昭和58年	みなとみらい21竣工
1985	昭和60年	横浜そごうデパートオープン
1991	平成3年	パシフィコ横浜オープン
1991	平成3年	横浜グランドインターコンチネンタルホテルオープン
1993	平成5年	横浜ランドマークタワー完成
1994	平成6年	横浜国際会議場完成
1995	平成7年	臨港パーク完成
1997	平成9年	クイーンズスクエア横浜オープン
1999	平成11年	横浜ワールドポーターズオープン
2002	平成14年	赤レンガ倉庫・赤レンガパークオープン
2009	平成21年	日産自動車株式会社グローバル本社完成
2011	平成23年	カップヌードルミュージアムオープン
2019	平成31年	横浜アンパンマンこどもミュージアムオープン
2019	平成31年	新港ふ頭客船ターミナル(横浜ハンマーヘッド)オープン
2021	令和3年	神奈川大学みなとみらいキャンパス完成
2024	令和6年	みなとみらい21地区60.61番街の事業予定者決定

### 3. 山下公園

#### 1) 山下公園周辺の地形的特徴

横浜市は多摩丘陵、三浦丘陵に連なる丘陵部が存在しており、全体的に坂や傾斜地が多い起伏に富んだ地になっているといえる。一方で山下公園周辺の地形を見てみると海岸部はほとんどが埋め立てによって造成されており、人口的で平坦な地形へと改変されている。しかし、同じ海岸部でも日本大通り駅から南東側の元町・中華街駅にかけての部分は周辺に比べて若干標高が高いのに対して中華街や関内駅がある地点は海岸部に面している山下公園よりも標高が低くなっていることがわかる（図1）。

現在の日本大通り駅や元町・中華街駅がある地域は埋立て前は宗閑嶋（しゅうかんじま）と呼ばれる半島状の砂州であった。宗閑嶋より内陸側、現在の中華街が立地している地点は海を埋立てて土地を造ったのに対して、宗閑嶋があった場所はある程度陸

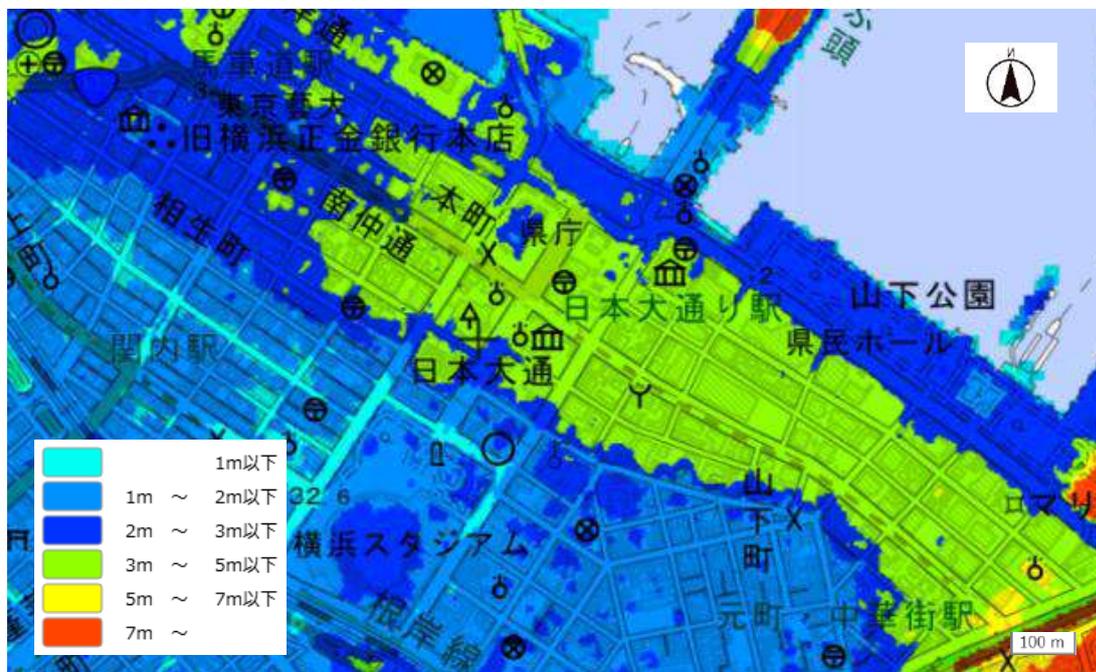
地が形成されている土地で開発を行ったため、周辺よりもやや小高い地形になっているのである。標高の低い中華街を少し小高いエリアが蓋をするような形の不自然な標高図が見られるのはこれが原因である。

#### 2) 山下公園の概要

山下公園は神奈川県横浜市中区山下町に位置している。面積は74000㎡で横浜港に面して縦750m、横100mの幅で設けられている。開園したのは1930年（昭和5年）3月で日本で最初に開園した臨海都市公園である。公園内には「赤い靴はいてた女の子」像や水の守護神像など様々なモニュメント未来のバラ園など様々な魅力的な公園内施設が整備されている。

#### 3) 山下公園の歴史

1930（昭和5）年に山下公園として開園する以前、この地は外国人居留地の近くに設けられた海岸通りであった。1859年に横浜港が開港して以降、現在の山下公園の近



第1図 山下公園周辺の標高図

（地理院地図により作成）

くには来日する諸外国の外交官や商人たちが暮らす外国人居留地が設けられていた。1899(明治 32 年)年に外国人居留地制が廃止され、外国人が国内居住が自由化されても、なおこの地は諸外国の人が行き交う国際色豊かな場所で、居留外国人向けのクラブやホテルなどが整備されていた。明治中期以降、貿易港として湾岸設備の建設が進むなかでも、海岸通りは人々が海と直接接することのできる場所としての役目を果たしており、市民の憩いの場所であったといえる。

しかし、1923 (大正 12) 年 9 月 1 日に相模湾北西部を震源とする関東大震災が横浜市を襲い、横浜市内では 26000 人以上が死亡し、約 35000 棟の建物が倒壊もしくは焼失した。山下町も大きな被害にあったが、他の地域と異なる被害の特徴が見られた。それは瓦礫の種類である。市内の他の地域では木造建築が多いため、瓦やトタン、焼け残った木材などが瓦礫として残ったが、山下町は外国商館が多く立ち並んでおり、その建築様式も日本の物とは異なるため、レンガや石材といった周辺の地域に比べて大きく、重い瓦礫が被害後は積み重なっていた。

当時は現代のような重機が無く、瓦礫を運ぶことが出来なかった。そのため、できるだけ被災地の近くで瓦礫を処分する必要があった。そこで現在、山下公園が立地している海岸に注目がなされるようになった。この場所は当時、瓦礫の集積場として指定されていたが、横浜都市計画の中でこの場所に海岸遊歩道として海岸公園の設置が計画された。公園の名称として横浜市は海岸公園を提案したが、計画が政府案に組み込まれた際に名称が山下公園に確定した。瓦礫の移動にはトロッコが用いられた。海岸まで敷かれたレールに沿って市民自らが手押しでトロッコによって少しずつ瓦礫を運び海岸の埋め立てを進めた。震災から 7 年の月日が経過した 1930 (昭和 5) 年に日本で最初の臨海公園である山下公園が完成した。瓦礫によってつくられた山下公園は関東大震災から復興したシンボルであるといえる。

第 1 表 山下公園の近現代における年表

年代	月	出来事	
		政治・社会	都市関係
1854	安政 1	2	ペリーの横浜上陸
1858	安政 5	6	日米修好通商条約
1859	安政 6	7	
1860	万延 1	初頭	山下町に居留地設置
1899	明治32	7	外国人居留地制廃止
1923	大正12	9	関東大震災
1923	大正12	10	現山下公園の海岸が瓦礫の集積所として指定
1925	大正14	6	山下公園計画着工
1930	昭和 5	3	山下公園完成

【参考資料】

横浜開港資料館 2017.館報「開港のひろば」第 138 号.

<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/journal/138/02.html> (最終閲覧日:2024 年 6 月 20 日)

横浜市ホームページ 山下公園中区

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/koen/koen/daihyoteki/kouen008.html>  
1 (最終閲覧日:2024 年 7 月 10 日)

齋藤怜 2023. 横浜市 山下公園の下には何が埋まっている? 関東大震災 100 年.

<https://www.nhk.or.jp/shutoken/yokohama/article/013/76/> (最終閲覧日:2024 年 6 月 20 日)

# 横浜港周辺地区の産業と文化

## I. 横浜の産業と文化の全体像

### 1) 社会的・文化的特性

横浜市は、港湾部を含む中心市街地は、「ハイカラ」という代名詞の似合う街としての気質を現代まで引き継いでいる。

「ハイカラ」とは、西洋風の身なりや生活様式をする様、人物、事象のことである。

今日の社会・文化的特性には、横浜市の高いハイカラ気質と東京通勤圏内部に「神奈川都民」といわれる住民が多いため、先端的高品質の知識・情報のキャッチ欲求が高いといえる。

### 2) 国際的要素

横浜市は、明治以降の海外への玄関口として、外国人居留地を形成していたため、横浜中華街が位置する横浜市中区の米国籍人口が 500~1100 人と神奈川県で最も多い。

横浜港は外国との貿易の拠点として、日本の近代化に大きな役割を担っており、現在も国際色の強さは大都市である横浜市の特徴となっている。

また、横浜中華街は横浜における観光の目玉として賑わっており、それに伴う大型スクリーンの設置やマンションの建設計画による景観論争が起きるなど注目度が高い。

## II. ジェラルールの水屋敷と瓦工場

### 1) 概要

現在、元町公園中央の低地部分でプールと「ウォーターガーデン」として整備されている付近では、明治初期にフランス人実業家のジェラルールが船舶給水業を営んでいた。彼は湧水を簡易水道で引き、外国船に飲

料水として販売した。品質が良く好評だったという。彼は、同地で西洋瓦の製造も行っていた。

### 2) アルフレッド・ジェラルールとは



第1図 アルフレッド・ジェラルール  
(Wikipedia commons により作成)

アルフレッド・ジェラルールはフランス北東部のランスの生まれで、生家はパン屋を営んでいた。1864 (文久3) 年、26歳のときに来日し、開港間もない横浜で商売をおこした。当初は食料品の船舶供給業を営んでいたとされているが、1870 (明治3) 年には山手の湧き水に着目して船舶給水業を営むようになった。

この水は非常に良質で、「インド洋に行っても腐らない」とまで言われ、当時の船乗りたちの間で評判になった。

次にジェラルールは西洋瓦と煉瓦の製造工場を設立し、そこで製造される瓦と煉瓦は山手居留地の家々や山下町の商館などの建築に用いられた。ジェラルールの瓦は評判も良く、これをまねた偽物まで現れた。

ジェラルールは1878(明治11)年に帰国し、1915(大正4)年に故郷のランス市で亡くなっている。享年78歳だった。日本での成功によって財を成し、悠々自適の晩年を過ごした。

ジェラルールの帰国後、横浜の工場跡地は大正活映の撮影所などに用いられた。そして、1927(昭和2)年にはジェラルールの遺産相続人から横浜市が工場跡地の永代借地権を買収し、湧き水を利用したプールを中心とした公園として整備されることになった。これが現在の元町公園の発祥である。

### 3)山手の湧き水

1859(安政6)年6月に横浜が開港し、外国人が港の周辺に住みはじめたことにより、横浜の人口が急激に増加した。

人口が増加したことにより、水不足問題が起きた。更には横浜港に停泊する船舶への水供給も必要になった。

横浜は埋め立て地であるため井戸を掘っても塩分を含んでおり、飲み水として適さない。当時は埋め立て地ではない場所の中で、本町の町会所裏(現在の横浜市開港記念会館付近)と三井組(現在の本町四丁目交差点付近)の二か所のみ飲み水として利用できる井戸があり、一日中井戸の水を汲みに行っていた。

水不足が深刻である中、飲み水の販売業者ができたり丘陵の湧き水を売る水売りがいたり商売を始める人も出てきた。

水不足が深刻である中、飲み水の販売業者ができたり丘陵の湧き水を売る水売りがいたり商売を始める人も出てきた。

さらに横浜港に停泊する船舶への給水も必要になり、より水不足となった。その中で、港に近い山手や野毛の丘陵の裾野で豊富で質の良い湧き水が多く湧き出ており、ジェラルールは、山手の丘の麓に湧いている良質な湧水に着目し、水供給業の準備を始めた。

### 4)ジェラルール水屋敷地下貯水槽

ジェラルール水屋敷地下貯水槽は、幕末から横浜に居留したジェラルールが経営した山手の質の良い湧き水を船舶に供給する給水業のための施設である。

貯水槽はその名が示すように湧き水の沈殿と貯水を目的とした施設で、約17.6m×約6.5mで高さは約2.5mある。

フランス瓦の製造工場とともに、「水屋敷」と呼ばれ親しまれてきた。

明治10年代に建設され、昭和5年につくられた元町公園が再設備時に併せて設備され、2000(平成12)年に国登録文化財に指定された。

第1表 アルフレッド・ジェラルールの経歴と歴史 (山手西部自治会ウェブサイトにより作成)

1859(安政6)年	横浜が開港
1864(文久3)年	フランス人ジェラルールが26歳の時に来日
1870(明治3)年	ジェラルールが山手の湧き水に着目して船舶給水業を開始する
1878(明治11)年	ジェラルールがフランスに帰国する
1915(大正4)年	故郷のランス市で亡くなる

## 5) 瓦工場

ジェラルールは、給水業だけでなく、蒸気機関を導入した工場を建設し、フランス瓦・煉瓦・土管・タイルなどの建設資源の製造や販売も手掛けた。

職人が瓦を1枚ずつ手作りしていた時代に、ジェラルールの工場ではすでに機械による大量生産をおこなっていたと推察される。(著者名 穴野亜唯)

## III. 馬車道

### 1) 馬車道の概要

現在の馬車道商店街・伊勢佐木商店街は、日本人商人の発展に伴い形成された中心商業地である。

この場所に、金融関連機能が集中することで、繁栄したと考えられる。

### 2) 馬車道の歴史

#### ①開国～関東大震災

1866(慶応2)年の慶応の大火の後、幕府は諸外国との間で居留地の整備などに関する取り決めに締結した。そのなかに外国側の要請として盛り込まれていたのが、商業を活発にして、居留地の住民に運動や保養の機会を与えるために、馬車の道を整備することであった。道路は3本作られ、そのうち2番目の道路が現在の馬車道にあたる。

多くの人とモノが行き交う馬車道では、新たな事業や文化が次々に生まれた。以下に事例を紹介する。1870(明治3)年には紀伊国屋薬舗が創業した。紀伊国屋薬舗は、現在も馬車道で営業を続けている老舗の平安堂薬局の前身である。1869(明治2)年には、日本人によるアイスクリーム販売の第一号店として、町田房造が馬車道に氷水店

を開業した。現在では、毎年5月9日を中心に、馬車道商店街ではアイスクリーム発祥記念イベントを開催している。1872年(明治5年)には日本最初のカス灯が、大江橋から馬車道、本町通りにかけて点灯した。



第2図 カス灯

(馬車道商店街協同組合ウェブサイトにより作成)

馬車道には貿易港横浜を支える金融業・保険業・回漕業が集まり、やがてビジネス街としての一面も持つようになった。そのなかでも、日本と世界をつなぐ役割を果たしたのが横浜正金銀行である。横浜正金銀行は外国貿易の決済業務や外国為替業務を専門に扱う銀行として1880(明治13)年に開業した。1904(明治37)年には、横浜電気鉄道が開業し、翌1905(明治38)年には馬車道の交差点に路面電車の停留所が設置された。路面電車は市民の新たな交通手段となり、馬車道はさらに活気づいた。しかし、1923(大正12)年に関東大震災が発生し、関内地区も壊滅的な被害を受け、馬車道も一部の建物を除いて焼け野原となってしまった。

#### ②震災復興～太平洋戦争

関東大震災を受けて復興事業が進められ、

震災後の関内地区には、鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の建物が数多く建てられた。しかし、1941(昭和16)年から始まった太平洋戦争で横浜は空襲を受け、馬車道は再び焼け野原となってしまった。

太平洋戦争が終わり、1954(昭和29)年には、馬車道通商店街協同組合が設立され、馬車道は新たな一步を踏み出した。

### ③高度経済成長期

昭和30年代に入ると、横浜駅周辺の開発が始まり、繁華街として急成長していく一方、関内・関外地区は活気を失いつつあった。こういった状況のなかで、馬車道では、東京銀行横浜支店(旧横浜正金銀行本店本館)を改修し、神奈川県立博物館を作る計画が立ち上がり、1967(昭和42)年に開館した。

このように、高度経済成長期の馬車道は、まちの歴史と文化を大切にしたまちづくりを行ってきたのである。

### ④21世紀の馬車道

2002(平成14)年にライブタウン整備事業第1期工事が、翌年には第2期工事が完成した。さらに2004(平成16)年には、みなとみらい線が開通し、馬車道駅が誕生した。みなとみらい線の誕生によって、馬車道周辺の人とモノの流れにも変化が生まれた。

また、新たなイベントも開催しており、2009(平成21)年からは馬車道通りと山下公園通りを舞台にした「横浜ガスライトフェスティバル」、2013(平成25)年には関内ホールと商店街との協働事業である「馬

車道まつりアートフェスタ」が始まった。そして2017(平成29)年、馬車道は150周年という大きな節目を迎えた。

『馬車道まちづくり協定書』では、第1条で「馬車道は、“日本の異国文化発祥の地”として、開港横浜の歴史・文化を大切にするとともに、新しい文化を提案する。」と記載されており、150年という歴史を持ちながら、新たなまちの魅力を発信しつづけている場所であることがわかる。

## IV. 横浜赤レンガ倉庫

赤レンガ倉庫は1906(明治39)年大蔵省臨時建築部の設計監理によって始まった第二期工事において、保税倉庫としての利用を目的に、「1号倉庫」、「2号倉庫」として、当時の大蔵省臨時建築部の部長妻木頼黄により建設された。



第3図 創建時2号倉庫

(横浜赤レンガ倉庫ウェブサイトにより作成)

しかし、1923(大正12)年に発生した関東大震災で、2号倉庫は倒壊を免れたが、1号倉庫は中央部分が崩れ落ちるなど大きな被害を受けた。被災直後には大規模な復旧工事が行われ、1号倉庫は約半分の大きさに縮小され、内側に鉄筋コンクリートの補強壁が取り付けられた。2号倉庫も耐震性も高めるためクレーンが撤去されるなど改修工事が行われた。

第二次世界大戦が始まると、海外との貿

易は途絶え、赤レンガ倉庫は戦争における軍事物資の補給基地になった。終戦後は、GHQに接収され、アメリカ軍の港湾司令部として使用されることになり、港湾倉庫としての機能は止まった。

1956（昭和31）年には、約10年間続いた接収が終了し、1号倉庫は税関倉庫、2号倉庫は公共の上屋となり、再び海外との取引が始まった。

しかし、赤レンガ倉庫は創建当時から横浜港の物流拠点として活躍してきたが、新港ふ頭が物流機能を他のふ頭に譲っていく中、1980年代には赤レンガ倉庫も倉庫として利用されなくなり、活用の方法が検討されるようになった。そこで、「港の賑わいと文化を創造する空間」を事業コンセプトとし活用計画が提示された。横浜市と民間事業者（2号倉庫）は、計画に基づいて内部の改修工事を実施し、2002（平成14）年4月に新たに施設をオープンした。

2棟ある建物のうち、小さい方の1号倉庫は、歴史的資産としてのシンボル性を活かした場所として利用されることになった。大きい方の2号倉庫は、倉庫の歴史性やウォーターフロントという立地特性を活かして食文化を中心とした店舗展開を行ったり、賑わいの場にふさわしいエンターテインメント性あふれるジャズ・ライブハウスやイベントスポットなどを演出したりと、主に商業施設として利用されている。また、2棟の倉庫の間にある2棟間広場は、倉庫と一体化した賑わいの演出空間として位置付けられ整備された。赤レンガ倉庫は、みなとみらい21中央地区と中華街・山下地区を結ぶ中間点に位置しており、両地区の結節点となっている。



第4図 2棟間広場のイベント

（横浜市観光協会ウェブサイトにより作成）

（著者名 高杉航大）

#### 【参考資料】

山手西部自治会

<https://www.yamate-west.com/8-%E6%A8%AA%E6%B5%9C%E3%81%AE%E6%B0%B4%E4%B8%8D%E8%B6%B3%E3%81%A8%E5%B1%B1%E6%89%8B%E3%81%AE%E6%B9%A7%E6%B0%B4/>

（最終閲覧日：2024年6月19日）

Japan Travel 横浜ジェラール水屋敷

<https://ja.japantravel.com/%E7%A5%9E%E5%A5%88%E5%B7%9D/%E6%A8%AA%E6%B5%9C-%E5%85%83%E7%94%BA%E5%85%AC%E5%9C%92/2520>

（最終閲覧日：2024年6月19日）

横浜線沿岸 公園探訪

[https://www.natsuzora.com/may/park/motomachi\\_gerard.html](https://www.natsuzora.com/may/park/motomachi_gerard.html)

（最終閲覧日：2024年6月19日）

馬車道商店街オフィシャルサイト。

<https://www.bashamichi.or.jp>（最終閲覧日：2024年6月8日）

馬車道商店街協同組合 2009. 『馬車道まち  
づくり協定書』

赤レンガ倉庫ホームページ - 横浜市.  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/minato/taikan/asobu/spot/red-renga/akarenga.html> (最終閲覧日: 2024年6月8日)

横浜赤レンガ倉庫の歴史.  
<https://www.yokohama-akarenga.jp/about/history> (最終閲覧日: 2024年6月18日)

横浜市観光協会公式サイト  
<https://business.yokohamajapan.com/ja/>  
(最終閲覧日: 2024年7月3日)

# 横浜港周辺地区における観光

## 1. 港の見える丘公園

港の見える丘公園は、横浜市中区にある公園である。横浜港を見下ろす高台からの眺望が魅力であり、多くの来園者が訪れる公園である。



第1図 港の見える丘公園

(横浜市 港の見える丘公園 HP により作成)

公園周辺は、横浜開港当時は外国人居留地であった。丘の上にはイギリス軍、丘の下にはフランス軍が駐屯していた場所である。横浜開港と同時に横浜に多くの外国人が居住するようになるが日本人との間にトラブルが発生するようになった。そうした状況下で自国居留民の安全と財産を守るためという名目で自国の軍隊が駐屯するようになった。

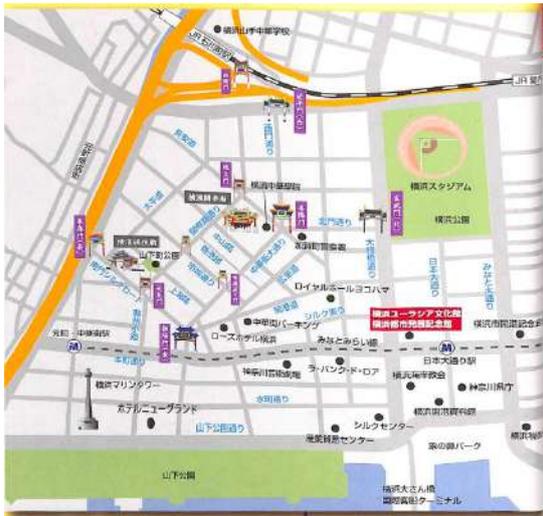
戦後、この一帯は米軍に接収された。接収解除後、地元の要望により公園としての用地取得が行われ、1961（昭和36）年から整備が進められた。1962（昭和37）年5月に風致公園として開園した。

フランス領事館が置かれていた跡地は

「フランス山」区域として公園に併合され、イギリス総領事館官邸は「横浜市イギリス館」として開館した。この横浜市イギリス館があるイギリス山地区には、横浜に多くの作品を残した建築家 J.H.モーガンによって1926（大正15）年に建てられた「山手111番館（旧ラフィン邸）」といった歴史的建造物も保存されている。その後も園内の整備は続けられ、1978（昭和53）年には大佛次郎記念館が、1984（昭和59）年には神奈川県立近代文学館が開業した。また同年には横浜人形の家とフランス山を結ぶ「フランス橋」が開通し、1986（昭和61）年10月には大佛次郎記念館と神奈川近代文学館とを結ぶ「霧笛橋」が開通している。さらに、1991（平成3）年5月には、市の花であるバラの制定記念として、約110種1300株のバラ園が開業した。このバラ園は1999（平成11）年に「ローズ・ガーデン」として再整備された後、2016（平成28）年4月1日に緑化工事が終了し、「イングリッシュローズの庭」として開業した。イギリス館を背景にバラ植栽を主とした英国風の庭をテーマに一年草と宿根草が混植されたガーデンである。さらに2014（平成26）年には外国人墓地正門脇の旧アメリカ海軍病院跡地に港の見える丘公園が拡張し、「ブラフ99ガーデン」が開園した。

## 2. 横浜中華街の歴史

### 1) 中華街の変容



第2図 横浜中華街の現在地図  
 (『横浜中華街 160年の軌跡 この街がふるさとだから。』より作成)

表1 横浜中華街の歴史  
 (『横浜中華街 160年の軌跡 この街がふるさとだから。』により作成)

年代	出来事
1894年 明治27年	日清戦争
1899年 明治32年	居住地撤廃
1923年 大正12年	関東大震災
1937年 昭和12年	日中戦争
1952年 昭和27年	中日協会、中華街の復興について協議
1955年 昭和30年	善隣門設立
1972年 昭和47年	日中国交正常化
1976年 昭和51年	中華街が食の街として確立
2004年 平成16年	みなとみらい線元町・中華街駅開業
2011年 平成23年	東日本大震災
2020年 令和2年	コロナによるパンデミック

幕末、現在の中華街付近は横浜新田と呼ばれていた。横浜新田とは、1858年に横浜港が開港されたことにより「外国人居留地」が作られ、背後に広がる土地を整備されていく中でできたものである。現在の南門シルクロード、開港道、長安道はそのあぜ道の名残といわれている。横浜港が開港すると、アメリカ・イギリス・フランスなどから大勢

の商人が横浜を訪れ、居留地に商館を開いた。彼らは、横浜進出にあたり、中国人をともなってきた。中国人は漢字によって日本人と筆談できたため、西洋人と日本人の間の取り引きの現場で不可欠な存在となった。横浜と香港・上海の間に定期航路が開催されると、洋裁・ペンキ塗装・活版印刷などの技術を身につけた中国人が横浜を訪れた。また、北海道産のアワビやナマコなどの中華食材を香港・上海に輸出したり、台湾産の砂糖を日本に輸入する華僑貿易商も現れた。

明治初年には横浜の華僑人口は約 1000 人となる。彼らは、居留地の一角、旧横浜新田を造成した地域に徐々に集住し、関帝廟、中華会館、劇場などを設け中華街を築いた。しかし、1894 (明治 27) 年に日清戦争が勃発すると、横浜の華僑もその 3 分の 1 が帰国してしまった。終戦後に再び中華街に活気がもどると中国の革命家孫文の来日に影響されて、華僑の学校が創設された。

1899 (明治 32) 年、不平等条約改正により、居留地が撤廃されることとなると、中国人の「内地雑居」を危惧する声が上がった。例えば、大勢の中国人労働者の来日で日本人が失業しないのか、ということが危惧された。そこで、居留地外で仕事をする外国人には理髪・洋裁・料理業など一定の職業制限が設けられた。

居留地の撤廃後には、旧居留地外で料理店を営む華僑も次第に増加した。華僑人口は 1900 (明治 33) 年頃には 5000 人あまりに到達した。中国人商業会議所や要明公所・三邑公所などの同郷団体も設立され、華僑社会は発展を遂げた。しかし、1923 (大正 12) 年 9 月 1 日、関東大震災が発生し、中華街は壊滅的な打撃を受けた。古いレンガ

造りの建物が密集していたため、家屋は崩壊・焼失し、多くの華僑が命を落とした。生き残った人々も故郷に帰っていった。こうして一時は横浜華僑は 200 人あまりに減少し、さらに震災後、日本人による中国人虐殺という悲劇も起こった。

震災で大打撃を受けた中華街だったが、徐々に人が戻りはじめ、料理店、雑貨店、理髪店が立ち並んだ。また、新たに中華公立学校が設立され、広東語での授業が始まった。昭和初期には華僑人口は 3000 人あまりに達した。しかし、1937 (昭和 12) 年 7 月に日中戦争が勃発した。8 月には東京在住中国人の帰国がはじまる一方で、横浜に生まれ育ち、生活基盤をおく多くの華僑はここにとどまった。やがて、駐日中国大使・横浜総領事など外交官が撤退し、横浜に暮らす華僑の生活は厳しさを増した。そうした中でも、華僑は地元との関係を保つ努力を続け、戦時下の日々を耐えた。

1945 (昭和 20) 年 5 月 29 日、大空襲により中華街は一面火の海になり、人々は山下公園や山手に逃げた。同年 8 月 15 日に終戦を迎えそれとともに復興が始まった。華僑は自治組織を作り、対外窓口となり、配給の取りまとめを行うほか、いち早く 1946 (昭和 21) 年には関帝廟と横浜中華学校を再建した。のちに、学校は二つに分かれたが、両校とも現在の中華街の文化を支える役割を果たしている。1955 (昭和 30) 年、中華街復興の願いを込めて、中華街大通りの入り口に「善隣門」が建てられた。牌楼の上には、華僑が「唐人街」、日本人が「南京街」と呼んでいた街の正式名称として「中華街」が「親仁善隣」の四文字とともに掲げられた。

現在の中華街では、中国人が飲食店、日本人が食材を供給するという形で分業している。

## 2) 中華街のいま

1972 (昭和 47 年) の日中国交正常化とともにパンダフィーバー、中国ブームが訪れる。その中でグルメブームも起こり、横浜中華街は食の街として注目を集める。数々のガイドブックが作られ、細い路地にまで料理店が立ち始めた。1976 (昭和 51) 年に横浜中華街は食の街として確立した。また、1980 年代にバブル景気を迎えると、1989 (平成元) 年の横浜博覧会もあり、全国からの観光客が中華街に押し寄せた。観光客が押し寄せるようになると観光客を相手にした店が増えていった。既存の店は支店を出したり、鮮魚店が魚料理を売り物にした中華料理店に衣替えしたり、精肉店が土産物の肉まんを主力とする店に変えたりと来街者の需要に合わせて営業形態が変化してきた。

1990 年代から 2000 年代初めにかけて、横浜中華街「街づくり」団体連合協議会が中心となり、牌楼建築や大通り整備事業など、街の基盤・環境整備が推進された。

2004 (平成 16) 年に横浜と元町・中華街を結ぶみなとみらい線が開通し、東京や埼玉などの首都圏からの観光客だけでなく、「中華街」と駅名に入っていたことが大きな影響を与え、全国から観光客が訪れるようになった。土日祝日は観光客で人があふれ、中華街の観光地化が一層進んだ。

2011 (平成 23) 年の東日本大震災後、中華街は一時閉店する店も多かった。

2020 (令和 2) 年 1 月中旬、日本で最初の新型コロナウイルス感染者が神奈川県在

住の中国人と伝えられたことや、2月初旬に横浜港に停泊したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号での集団感染のニュースなどの影響もあり、中華街への来街者が激減した。また、緊急事態宣言が出された4月上旬からは9割近くの店が休業した。新型コロナウイルスも落ち着き、中華街への来街者は徐々に増え、活気を取り戻してきている。

現在、横浜中華街には料理・雑貨・土産・クリーニング・靴など対消費者向けの店舗が約630店ある。その内訳として、中国料理店約200店、その他飲食店約80店、食品系小売店が約80店、その他の小売店が約100店、サービス業約170店となっている。老舗やインスタ映えする店、占いなど様々な店があり、チャイナ服を着て中華街を歩くことができ、中華街に行くとそれぞれにあった楽しみ方ができる。また、1年を通じて催し物やイベントをたくさん行っており、中国の文化を学ぶことができる。

### 3. MARINE & WALK YOKOHAMA

横浜赤レンガ倉庫に隣接する MARINE & WALK YOKOHAMA は、横浜みなとみらい・新港エリアの新たなシンボルとして2016年にオープンした。セレクトアイテムやインポートブランドを扱う個性的なショップ、湾岸の景観を生かしたテラス席が自慢のレストランやカフェなどが揃うオープンモールである。



第3図 MARINE & WALK YOKOHAMA  
(令和6年5月17日 小林撮影)

施設内には、ペットと一緒に食事ができるレストランや休憩スペース、リードホルダー付ベンチやペット専用の水飲み場も完備されており、ペットと一緒に楽しむことができる。

また、一般的なショッピングモールと異なる点として、明るく開放的な雰囲気を感じ、足元を豊かに感じさせる植物の多さや、空を仰ぐオープンスペースの存在が挙げられる。

例年MARINE & WALK YOKOHAMAでは、廃材を活用したクリスマスツリーを飾ったり、使い終えた資材を施設内で再利用するといったサステナブルな施策を行っている。この期間にはクリスマスマーケットとして14店舗が出店しており、廃材を活かしたアートピース、雑貨や世界の絵本、アーティストによる展示販売、リースやミニツリーの販売など、持続可能性に考慮した季節の買い物を楽しむことができる。

2020年8月には、新電力サービス「まちエネ」に切り替え、施設全体の電力を全て再生可能エネルギーでまかない始めた。

「まちエネ」とは化石燃料を使用していない電気であり、一年ごとにカーボンオフセットされる。MARINE & WALK YOKOHAMAの全電力のCO2排出量が実質ゼロとなっている。

このことは、事業で使用する電力の全てを再生可能エネルギーとする国際的イニシアティブ「RE100」に準じるものである。電力切り替えにあたっては、テナントに対するコスト増に繋がらないように工夫を重ねている。

MARINE & WALK YOKOHAMA 内のごにも、その電力が再エネ由来であることは記されていない。

MARINE&WALKYOKOHAMA を訪れる人たちは無意識のうちに CO2 排出ゼロ空間に身を置くことになる。

#### 【出典】

・横浜市 HP 港の見える丘公園（中区）

[yokohama.lg.jp](http://yokohama.lg.jp)

（最終閲覧日：2024年6月20日）

・みなとみらいギャラリー 港の見える丘公園

[city.yokohama.jp](http://city.yokohama.jp)

（最終閲覧日：2024年6月20日）

・港の見える丘公園

<https://www.natsuzora.com/may/park/minatomieruoka.html>

（最終閲覧日：2024年6月20日）

・横浜中華街

[chinatown.or.jp](http://chinatown.or.jp)

（最終閲覧日：2024年6月20日）

・横浜ユーラシア文化館.2021

『横浜中華街 160年の軌跡 この街が、

ふるさとだから。』 横浜ユーラシア文化館  
・やなぎさわまどか.2020.12.16

『「MARINE&WALKYOKOHAMA」再エネ 100%で運営』 横浜産経新聞

#### 【著者】

木村ことの・小林新拓

# 東海道神奈川宿および中華街の歴史と文化

## 1. 東海道の歴史と概要

東海道は、1601（慶長6）年に、江戸ー京都間、江戸ー大阪間の人馬と情報の往来幹線として整備された。江戸後期の歌川広重に描かれた「東海道五十三次」や、十返舎一九が書いた「東海道中膝栗毛」は、東海道を描いた有名な作品である。

東海道は海岸に沿った街道であるため大きな川が多く、交通の障害となった。木曾川、長良川、揖斐川の、3つの大きな河川が注ぐ伊勢湾地域は、その影響が最も大きかった。山越えの難所は箱根八里であり、箱根の難所は人々を震え上がらせたともいわれている。

## 2. 東海道神奈川宿

神奈川宿は東海道五十三次の日本橋より数えて3番目の宿場であり、この地名が県の名前や区の名前の由来となっている。この神奈川の地名が有名となった理由は、1854（安政元）年の日米和親条約締結の舞台となったためである。その4年後に結ばれた日米修好通商条約では神奈川湊が開港場に決められた。しかし、実際の開港は横浜となった。

開港が決まった当時、神奈川宿の本覚寺がアメリカ領事館、長延寺がオランダ領時間になるなど、多くの寺が諸外国の領事館に充てられた。

しかし、関東大震災と第二次世界大戦によって、宿場町当時のものはほとんど失われている。現在では台町の坂などに、当時の

面影を見つけることができる。

## 3. 甚行寺の概要

旧東海道の道筋にある宮前商店街に入ると、山側に甚行寺がある。甚行寺は、意門上人が本山の専修寺 14 世堯秀を勧請して1656（明暦2）年に創建した。開港当時、甚行寺の本堂は土蔵造りであったが、改造を加えてフランス公使館に充てられた。



第1図 甚行寺の外観  
(2024年7月4日 岩寄撮影)

## 4. 洲崎大神の概要

洲崎大神は、横浜市神奈川区青木町にある神社である。洲崎大神は源頼朝が安房国（現千葉県）一宮の安房神社（注：洲崎神社と思われる）の霊を移して1191（建久2）年に創建したと伝えられている。

神社前から海に向かって延びる参道が第一京浜に突き当たる箇所に神奈川湊の船着き場があり、横浜開港後は、開港場と神奈川

宿をつなぐ渡船場となっていた。



第2図 洲崎大神外観

(2024年7月4日 岩寄撮影)

【著者：岩寄優波】

#### 参考文献

・横浜市寺社案内 猫の足あと：甚行寺。横浜市神奈川区青木町にある真宗高田派寺院

<https://tesshow.jp>

(最終閲覧日 2024年7月9日)

・地域ニュースサイト号外 NET：【横浜市神奈川区】6/12に青木町にある「洲崎大神」でおまつりが開催されるようです

<https://yokohamakanagawa.goguy.net.jp>

(最終閲覧日 2024年7月9日)

## 中華街の門について

### 1. 中華街の門の歴史

中華街の門は牌楼門と呼ばれており、現在は 10 基の牌楼門が立っている。その中でも東南西北にある 4 基には陰陽五行に基づく深い意味が存在している。

東には青龍神、南には朱雀神、西には白虎神、北には玄武神が祀られている。いつ、いかなる時でも、それぞれの守護神が邪を見張っていることによって、城内の繁栄と安全を図った。東方の霊気は青龍神が見張り、陽気が南方に入ると朱雀神が引き継いで、西方へ移ると白虎神が受け入れ、陰気が満ちる夜となると北方を玄武神が守る。現在の横浜中華街も同様で、横浜中華街は周辺の道路に対して、45 度傾いていて、ほぼ東南西北に角がある。

中華街のシンボルである善隣門は、1955（昭和 30）年 2 月、戦後復興の願いを込めて完成した。当時は牌楼門と呼ばれていた。この牌楼門が建設される前の中華街では「南京町」と呼ばれていたが、中央の銘板に「中華街」と書かれたことにより、正式名称に「中華街」と呼ばれるようになった。現在の姿に改修したのは 1989（平成元）年で、名称も「善隣門」に改められた。

### 中華街の門の概要

善隣門のほかには、東南西北に位置する 4 基である朝陽門、朱雀門、延平門、玄武門、そのほかには、西陽門、天長門、地久門、2 基の市場通り門の 10 基が存在する。(図 3)



図 3

中華街の地図と牌楼門の位置

(はまれぼ.com より参照 2024-6-19)

東に位置している朝陽門は青龍神を祀っており、日の出を迎える門で朝日が町全体を覆い繁栄もたらすという意味がある。色は青で、高さ 13.5 メートル、幅 12 メートルである。平成 15 年 2 月 1 日に牌楼が落成し、中華街で最大の門となった。みなとみらい線の元町・中華街駅から中華街を訪れるとこの門を通る。

南には朱雀門があり、この門は厄災を払い、大いなる福を招くといわれている。守護神は朱雀神で、色は赤であり、元町側にこの門は位置している。

延平門は西に位置しており、平和と平安の安らぎが末永く続くことを願う。守護神は白虎神で色は白である。JR 石川町駅から来ると二番目に通る門である。

玄武門は北に位置しており、子孫の繁栄をもたらすとされている。守護神は玄武神で、色は黒である。横浜スタジアム側から来るときに通ることになる。

西陽門は延平門よりもさらに西端に位置しており、西の一番太陽に近い門ということから、「西陽門」と名付けられた。

天長門・地久門は商売の神様である「横浜

中華街關帝廟」がある通りを象徴する門である。東側が「天長門」西側が「地久門」。市場通り門は中華街の市場として大通りと並び、中華街のにぎやかさを象徴した門である。

【著者：山邊勇和】

横浜巡検(2024年)スタッフ

オーガナイザー

岩嵯優波 大西沙武 岡村幸 木村ことの

小林新拓 宍野亜唯 高杉航大 山邊勇和

(東海大学教養学部人間環境学科)

鈴木修斗

(東海大学教養学部人間環境学科)

横浜巡検資料集

異国情緒あふれる海の街・横浜  
—開港以降の歴史と現在までの変容—

2024年7月10日発行

発行：東海大学鈴木修斗研究室

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目4-1-1

TEL. 0463-63-4921

E-mail：[suzuki.shuto.s@tokai.ac.jp](mailto:suzuki.shuto.s@tokai.ac.jp)

ホームページ：<https://www.suzuki-shuto.com/>